

## ヨハネの福音書 第6章 63節

「いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。」

生涯どれほどのことばを聞くことになるだろうか。あまりにもありふれたことで特別気にかけることはない。聞こうとしないときでさえことばが溢れるように身边にある。身近にあふれ、当たり前のように聞こえる様々なことばはそれだけで大切なこともある。空気のように無くてならないものである。聞いている者にはありふれたもの、当然なものとなんのことばもなく受けとめられているかもしれないが、そうでないことばがある。その特別さ、異質さが語られている。

いのちに関わることばである。御霊が与えるいのちがある。誕生時から既に受けている命に語ることばがある。その話されたことばが与えるいのちである。このことばは話していることば、語り手の人格と息が伴うことばである。そして、わたし、と宣言し他のいかなるものでもなく、ことばでもないことを断言する。

それだけに、この語りかけている人格のことば、息のことば、今ここで聞いていることばに集中して受けとめることが大事である。聞こえているときにしっかりと聞くことが大事である。それが、霊であり、またいのちだからである。わたしと言われ、みことばを語ってくださるお方に聞くのみである。

2023年2月8日